



# 令和4年度 宮古支部会議

参加者：16名

参加施設：10施設

## 1. 開会挨拶：

蒲野 和子 氏(あゆみ訪問看護ステーション)

## 2. 会長挨拶：

岩手県作業療法士会会長 藤原瀬津雄 氏(東八幡平病院)

## 3. 地域支援事業への今後の取り組みについて

地域局局長 小笠原 康浩 氏(ユートピア白滝)

## 4. 議題

①第34回 岩手県作業療法学会 総評

下河原 慎也 氏(宮古第一病院)

②令和4年度 宮古支部活動報告

宮古支部支部長 湊谷 真理 氏(三陸病院)

③次年度組織再編(予定)

④次年度活動計画

## 5. 検討事項



# 令和4年度 宮古支部会議

令和5年2月「令和4年度宮古支部会議」をZoomで開催いたしました。支部の全10施設からの参加の他、藤原会長、大久保副会長、小笠原理事にもご参加頂きました。

小笠原理事からは、地域局として地域支援事業の中でのOT参画をより推進していく方針他をご説明頂きました。宮古支部が発足して4年経ち、支部として支援事業に関わる中で感じたことがあります。1つめは自分達の圏域の地域支援事業の全体像や地域のビジョンや実情を大まかにでも把握することが大切だということ。2つめにそこに関わる自治体や様々な機関、職種等を知り、OTとして関わっていくのであれば支部の存在を示し繋っていくことが必要だということとです。

先日は多職種連携研修会に参加し、県内の様々な地区の包括支援センターのスタッフとディスカッションする中で地域サイドの意見を聞くという貴重な体験をさせて頂きました。そこでは、私達が思っている以上に地域の中でリハ職は求められているのだと実感することができました。しかし地域毎に実情が異なり支援事業とリハ職のマッチング方法が様々である、また不透明である地域もある、その他予算の問題等の課題も見えてきました。



# 令和4年度 宮古支部会議

自治体内にリハ職が配置されている地区もありましたが未だそういう地域は少ないのではないのでしょうか？支援事業においてリハ職が必要とされるのはありがたい反面、殆どのOTは事業所に在籍していて支援事業に協力したくても簡単に参画できないというジレンマがあります。

幸い宮古支部は広域支援センター所属のOTや事業主から参画の理解を得たOT、年休を利用してまでも参画してくれる志の高いOTの皆さんの協力により、現在依頼されている支援事業には何とか派遣することが出来ています。

若いOTの皆さんの多くが、自身の本来の業務を精一杯勤めていて、さらに未知の領域に足を踏み入れる余裕はないと考えることは当然ですし理解できます。ただ、実際に支援事業に参画してみると、地域の高齢者との交流は反応も大きいし楽しく、また専門職として必要とされている感、OTとしてのやりがいを実感できる素敵な一面があります。支部としては、若いOTの皆さんには先輩OTに付いて一緒に体験するところから始めて少しでも興味を持って頂き、いずれは地域支援事業と一緒に参画してくれるOTの仲間が少しずつでも増えて欲しいと切に願っているところです。

宮古支部支部長

湊谷 真理 氏  
(三陸病院)